

企業ニュース ピックルスコーポレーション

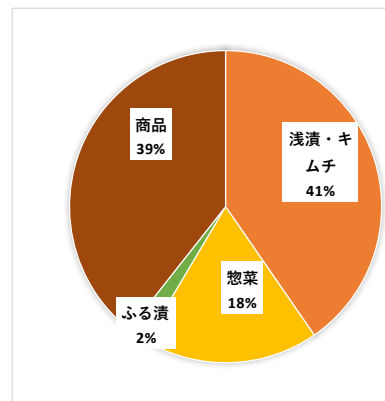
(東証1部：2925) <http://www.pickles.co.jp/>

作成者：兵藤三郎

国内漬物業界大手

1977年、東海デイリー設立。大手コンビニエンスチェーン・セブン-イレブンとの取引を開始。1993年、現社名に変更した。国内漬物業界No. 1（売上高ランキング、会社発表・日本食品新聞掲載）。2009年に発売した「ご飯がススム キムチ」がヒット商品となり業績をけん引している。現在の販路別売上高構成比は量販店・問屋等77%、コンビニ13%、外食・その他10%。品目別では浅漬・キムチが中心だが、単身世帯増加、高齢化、女性の社会進出などの社会構造変化に伴い成長市場となっている惣菜分野の開発にも注力している。その他、著名企業（いきなり！ステーキ、牛角など）とのコラボ商品なども開発している。西日本の販売拡大を目標に姫路、佐賀の工場を稼働させるなど、経営課題に取り組んでいる。

◇19.2期売上高構成比



(出所) ピックルス資料よりCAM作成

キムチの販売が好調に推移

19.2期の連結業績は売上高が407億円、前期比8%増、営業利益が14億円、同25%増。売上高は手柄食品（浅漬けなどの製造販売、2017年12月子会社化）の通年寄与、キムチの販売の好調推移、仕入商品の売上げが増加したことなどにより増収となった。キムチは健康食品とのテレビ報道も追い風となった。仕入商品では、熱中症対策などの需要が拡大した梅干しなどが伸長した。営業利益では新工場の稼働に伴う影響は受けたが、増収効果などでカバーした。加えて期後半は野菜価格が安定して推移したことも利益貢献した。

20.2期の会社計画は売上高が425億円、前期比5%増、営業利益が16億円、同12%増。ピーネ（ピーネ乳酸菌）関連商品製造工場が稼働した影響を、キムチ製品拡販などによる増収効果で補う。佐賀工場（2018年4月稼働）、手柄食品（現・ピックルスコーポ関西・姫路工場）の収益改善も営業増益貢献しよう。ピーネは当社が糠漬けから発見した胃酸耐性効果が期待されている乳酸菌。ピーネの能力増強を図るとともに、活用した商品開発を進めている。

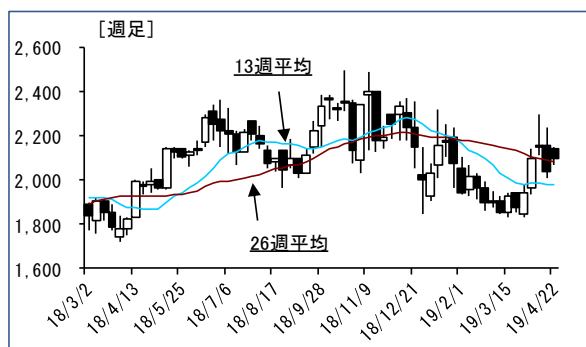
[株価動向・投資判断]

ニッチ分野に特化した食品メーカーで、M&Aや新規事業開拓なども活用し事業の拡大を継続している。健康需要なども取り込み、中期的な成長が期待できる銘柄であろう。

<2925 ピックルス 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益		1株配当	
	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	円		円	
18.2	37,616	(5)	1,131	(45)	1,233	(42)	872	(59)	144.8		記25.00	
19.2	40,670	(8)	1,409	(25)	1,561	(27)	920	(6)	143.9		28.00	
20.2 予	42,513	(5)	1,580	(12)	1,739	(11)	1,040	(13)	162.6		28.00	



[主要株価指標]		(売買単位：100株)
株価(2019/4/22)		2,098 円
年初来高値(高値日)		2,318 円(19/1/9)
同 安値(安値日)		1,832 円(19/3/11)
予想 P E R (20.2 予)		12.9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)		1,849.9 円
P B R		1.13 倍
予想配当利回り		1.33 %
(1株当たり配当金28.00円)		
R O E (19.2)		8.0 %
発行済み株式数		640 万株